

【ご参考資料】

2014年5月23日
野村アセットマネジメント株式会社

5月22日のトルコの政策金利の引き下げについて

主要政策金利を10%から9.5%に引き下げ

5月22日、トルコ中央銀行は金融政策決定会合を開催し、主要政策金利である1週間物レポレート¹を10%から9.5%に引き下げました。市場金利の上限となる翌日物貸出金利は12%に、市場金利の下限となる翌日物借入金利は8%にそれぞれ据え置かれました。1月の大幅な利上げ実施以降、初めての利下げとなりました。

4月末に発表された同中銀のインフレに関する報告書では、2014年末のインフレ率予想が6.6%から7.6%に上方修正されました。こうした中、市場では政策金利の据え置きが予想されていました。

不確実性の低下が背景

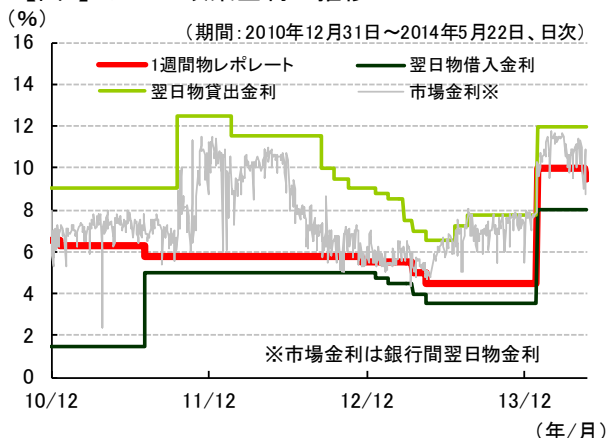
同中銀は、会合後に発表した声明の中で、利下げの背景について、不確実性の低下とリスクプレミアムを示す各指標の改善により、市場金利が全ての年限で低下していることを指摘しています。一方で、インフレ率の見通しが改善するまで金融引き締め政策を維持するとの表現は維持しました。

同国のエルドアン首相は、今年8月の大統領選挙に出馬すると見込まれており、経済成長を支えるために利下げを求める一方、同中銀は、インフレ率の上昇が緩やかになるまでは金融引き締めを続けるとしていました。市場では、インフレ率が高止まりする中、今回利下げが決定されたことについて、同中銀の独立性を懸念する見方もあります。

5月22日のニューヨーク外国為替市場では、利下げ発表後に、トルコリラは一時下落したものの、対米ドルで前日比0.6%程度、対円で同0.9%程度のトルコリラ高となりました。次回の金融政策決定会合は6月24日に開催される予定です。

以上

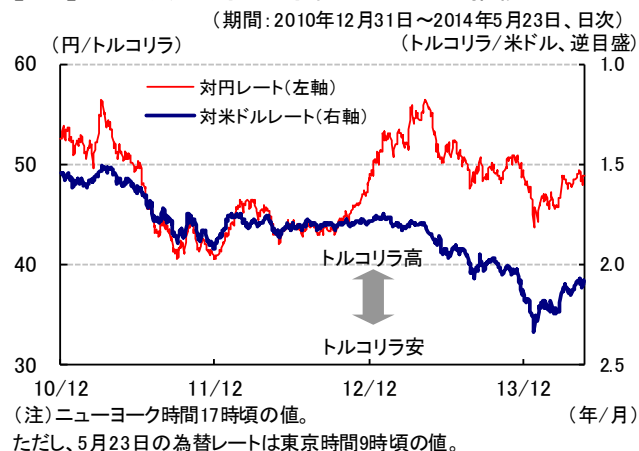
【図1】トルコの政策金利の推移



【図2】トルコの消費者物価指数(前年同月比)の推移



【図3】トルコリラの対円・対米ドルレートの推移



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。